

TOP OF THE GIRLS

～体から涙があふれてくる

ちんすこうりな詩集『女の子のためのセックス』

蛇口

螺旋階段上って
高いところまで
上り続けるだけなんだ
ひとりなんだ
ずっと
これからもずっと
ひとりで
見たことない景色
目指して
見たいから
上り続けるんだ
上り続けるだけなんだ
だから
ときどき
飛び降りてやる
そしたら
そこが
一番上
『螺旋階段』

恋愛を効率で考えがちな現代社会で異彩を放つ作品がある
たとえば等身大の愛や性を描いたと言われるエッセー漫画、峰な
ゆか著『アラサーちゃん』
しかし女のリアルを描きながら女の色気と魅力を強調する側面が
あるこの作品とちんすこうりなはあきらかに異なっている
女の子のためのセックスは、女子ちゃんの女子癖ではなく

さらに本人自身に特化した、目を見張る本人性の宝庫なのである

歩道橋から
新宿西口に溢れ返る人を見てた
俺は五十億人くらい踏みつぶしたいよ
きみが言うと
なんでも優しく聞こえるからまいった
男の子の好きなどこは
結局
暴力的なところなんだよね
わたし女の子だからさ
『うみべの女の子』より

この文章を書いている私は距離の奴隷である
人と人の距離を誤ってしまうと何かしらの暴力になると細心の注
意を払って生きている
甘く優しい暴力の使い手である男性はモテる
それを迎え撃つ女の子であるちんすこうりなはどこまでも柔らか
い
この詩集で一番好きなシーン（映像が浮かんでくる）である

わたしは見えないちんこをもっている
男の子とセックスするたびに大きくなった
見えないちんこは
乱暴にされたように
乱暴にしたくないと思っている
優しくいかせてくれたように
優しくいかせたいと思っている
『見えないちんこ』

ちんすこうりなは人一倍人との距離を大事にする
人一倍どころか人千倍と言っても大げさではない

何事も笑止千万にしないというかできない
それはとてもシリアスでときにとてもユーモラスな状況を生み出す
それがちんすこうりなの『女の子のためのセックス』の中で爆発している

勃起した男性器を
穴に入れて
こすると気持ちがいい
ただそれだけのことだ
人間は
ばかみたいだ
そんな簡単なことは
誰とでもできるよ
そんなことをセックスと名づけて
愛し合っていると喜んでさ
そんなことを
とりあえずあなたとしてみたい
いれて
こすって
いく
他の人間たちがしているように
してみたいのさ
穴なんだけど
ただの
真っ暗闇の
穴

*

穴がどこに続いているのか
思い出して
体から涙があふれた
『女の穴』

穴と棒と、シズル感溢れる涙が印象深い

哀しくどこか真剣すぎる滑稽さもある詩である
ちんすこうりなは以前、彼女のブログでこう語っている

自分にとって詩は、上手い下手じゃない
心に残るか残らないか
心を揺さぶるか揺さぶらないか
上手くても心に残らなければ
読み返されなければ
それは説明書とおなじ

ちんすこうりなは一番大事なことをちゃんと理解していて
同時にそれを自ら実践できる稀な人なのだ
説明書と同じというところは本当に同意できる
ちんすこうりなの詩はそして心に強く刻み込まれる

あなたの瞳に映るわたしが好き
自分の好きな自分になれるから
わたしの瞳に映るあなたもそうだといいな
『ロマンチック・メモ』

いいなという控えめな物言いがとてもよい
いつもそばにいるねは j ポップ歌詞のキラーフレーズだが
本当はそばにいないことをみんな感づいている
ちんすこうりなは瞬間の愛に生きて
ちゃんとその輝きを知っている
ちんすこうりなは女の子にその答えを言うことをためらわない
愛とは性とはこんなにも深刻で厄介なものなんだと
男の子である私も改めて当惑しやがて潔く感動してしまう

愛されることは誰かの夢の一部になること
『ふたりで』より

詩人・又吉究に

七年前にゆきずりの恋をした 今も隣で寝ている

というようなとても短い詩があるのだが
（彼のブログを探したが残念ながら今は閉鎖されていたので正確な文章ではない）
ちんすこうりなの詩を読んでいてその究の詩をひさしぶりに思い出した

永遠が人のエゴであるならば切に刹那を願うのがにんげんなのだが
愛という素敵な嘘で騙してほしい（Mr.Children 「NOT FOUND」の歌詞より）と乞うのもまたにんげんなのである
そして、ちんすこうりなはいつの間にかその狭間にいて残酷なくらい正直にありのままを見つめ続けている
しんどいだろうなと思う

一東京を離れて
一抹の寂しさと
もう私
嘘をつかなくていいんだ、という安堵
嘘をついて手に入れたかった
一時のしあわせ
『東京』

ちんすこうりなの書く作品はちんすこうりな的なものを書く者たちの世界の頂点に君臨している
ちゃんと読んだことはないがたとえば、最果タヒは最果タヒ的なものの頂点にいるのだろう
頂点に立っていないものを読む価値はない

.....

蛇口

詩人

テレビのバラエティー番組とプロ野球観戦が主食

詩集はあまり読まない

来年3月ひとり芝居『横なぐりの成長痛』作・演出

<http://yokonaguri.seesaa.net/s/>

Twitter @kotobaaka